

1. 会議の名称	君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議
2. 会議の開催日時	令和3年5月31日（月） 午前10時から午前11時
3. 会議の開催場所	君津市役所 5階大会議室
4. 会議の議題	（1）地方創生推進交付金活用事業の効果検証について （2）新しい総合計画 基本構想骨子（たたき台）について
5. 公開又は非公開の別	公開
6. 傍聴できる者の定員	10名
7. 出席委員	江澤武夫、榎本光男、鶴巻郁夫、 岩坂修一（藤代公成代理）、倉阪秀史、 井上周一郎、小関常雄、横尾隆義
8. 出席職員	市長 石井宏子 統括参事 田守光洋 企画政策部長 竹内一視 企画政策部次長 高橋克仁 経済部次長 茂木一也 経済部副参事 中澤京子 企画課長 馬場貴也 企画課副課長 中村峰之 企画課係長 山口 悟 企画課副主査 東 聡年 企画課主任主事 石井悠太 企画課主事 山田達也
9. 傍聴人の数	3名
10. 発言の内容	—
11. 備考	

【高橋次長】

それでは皆様、定刻前ではございますが、皆さんお揃いとなりましたので、ただいまより、令和3年度第1回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議を開催いたします。委員の皆様には、ご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。私、本会議の進行を務めます、企画政策部次長の高橋でございます。よろしく願いいたします。

初めに、本会議につきましては、君津市情報公開条例に基づき公開となっております。傍聴の方は3名いらっしゃいますので、その旨ご報告いたします。

それでは、続きまして、お配りしました会議資料の確認をさせていただきます。

～資料確認～

不足等はありませんでしょうか。

それでは、続きまして、石井市長から皆様にご挨拶を申し上げます。

【石井市長】

皆様、こんにちは。君津市長の石井でございます。

令和3年度第1回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、このように会議を開催させていただきます。感染症対策を万全に行いながら開催させていただきたいと思っておりますので、ご協力の程どうぞお願い申し上げます。

まずはじめに、日本政策金融公庫千葉支店 千葉支店 井上様並びに千葉銀行君津支店 支店長 藤代様におかれましては、新しい委員をお引き受けいただきまして、心から感謝を申し上げます。

本日は、藤代様は欠席ということで、代理で岩坂様にご出席いただいておりますが、どうぞよろしくお伝えくださいますようお願い申し上げます。

また、本市の職員でございますけれども、昨年度から経済産業省より派遣いただいております田守参事でございますが、今年度は部を超え、地方創生を強力に推進するため、市長部局の地方創生担当統括参事としてご就任いただいております。

りますので、ご紹介をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。
さて、地方創生が本格的に始動しまして、地方創生元年と言われた平成27年から5年以上が経過いたしまし、国はより一層、地方創生の動きを加速させていくという考えを示しております。

27日には、政府の地方創生の方向性をまとめました「まち・ひと・しごと創生」基本方針2021の骨子案が示されておまして、その重点施策の柱には、ヒューマン、デジタル、グリーン、この三つを加えて、取組みを加速させていくのことでございます。

本市では、現在、新しい総合計画の策定に向け取り組んでいるところでございますけれども、これらの国の方向性をしっかりと捉えたうえで、今後、新しい総合計画と総合戦略の一本化などについても検討を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き皆様方のお力添えをお願いしたいと思っております。

また、本市では、企業版ふるさと納税の活用に向けました地域再生計画を策定いたしまして、令和3年3月に国から認定を受けたところでございます。この制度などを最大限活用しまして、より一層地方創生を推進してまいりたいと考えております。

本日の議題は、地方創生推進交付金活用事業の効果検証についてと新しい総合計画の基本構想骨子についての2件でございます。

詳細については、後ほど事務局からご説明申し上げますけれども、皆様方には、各分野の専門的な知見から、どうぞ忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしく願い申し上げます。

【高橋次長】

ありがとうございました。恐れ入りますが、ここで市長は、公務の都合上退席となります。ご了承いただきますようお願いいたします。

～市長退席～

【高橋次長】

続きまして、会議の出席者のご報告でございますが、時間の都合もござい

ので、有識者会議の一覧表及び席次表により代えさせていただきたいと思いません。

それでは、続きまして、今回より本会議へご出席いただいております井上様より自己紹介をしていただきたいと思います。それでは井上様お願いいたします。

【井上委員】

日本政策金融公庫千葉支店長の井上と申します。よろしくお願いいたします。春の異動で名古屋の支店から千葉支店に参りました。ただ千葉県に住み始めてもう20数年となっております。千葉市に支店を構えておりますので、この地元千葉県のいろいろなことに対して、貢献できるということで、非常に嬉しく思っております。一つよろしくお願いいたします。

【高橋次長】

ありがとうございました。

それでは、先ほど市長の挨拶にもありましたけれども、本日は藤代委員の代理として、岩坂様にご出席いただいております。よろしくお願いいたします。

それでは議事に入らせていただきます。本会議の設置要綱第5条第2項の規定により、小関委員が座長となりますので議事進行をお願いいたします。

【小関委員】

はい。暫時座長を務めさせていただきます。それでは、さっそく議事に入らせていただきます。

一番目、地方創生推進交付金活用事業の効果検証について、事務局から説明をお願いします。

【事務局、議事について説明】

【小関委員】

ご説明ありがとうございました。それでは、委員の皆様からご質問やご意見等

ございましたらお願いいたします。

【倉阪委員】

サイクルツーリズムですけれども、そう言えば千葉県でもいろいろやっている
と思い、県のホームページを見たところ、神野寺などのここで挙がっている施
設など君津市のものは載っていませんでした。

神野寺などは手ごろなアップダウンがあり、かなりいいコースだと思いますが、
千葉県のおすすめコースには入っていなかったのが少し残念でした。

15名程度のイベントを開催するだけでは、定着しないので、例えば、途中で立
ち寄ることのできるスポットがあり、そのスポットで自転車を修理すること
ができるような器具の貸し出しを行うなど、北総あたりのサイクリングコー
スなどにはそのようなスポットがあり、それを繋いだ形でコース設定されてい
ます。

そのようなことをして、コースをちゃんと認知をし、そこに目掛けて手がける
ように、さらに単発のイベントでは面白くないので、定着させるような方向性
がいいと思います。

【馬場課長】

ご意見ありがとうございます。企画課の馬場でございます。自転車の取組みに
関しましては、県のホームページを早速確認させていただきまして、県と連携
を取りながら更なる周知を図ってまいりたいと思います。

また、この自転車の部分につきましては、これまで、サイクルラックの設置です
とか、サイクルマップの作成というものをやらせていただきまして、取り組ま
せていただいたところでございます。

イベントにつきましても、不定期にコロナを見据えながらやらせていただいた
部分もごさいますが、やはり普段から君津にお越しになるという部分が非常に
重要な部分かなと思っております。

また、これまで行政主導でやらせていただいたところですが、5月の22日、2
3日におきまして、JRさんの商品としまして、自転車を解体しないでそのま
ま電車に乗れるという「B. B. BASE」とJRさんは呼んでございますが、民間主導

で初めて君津駅を目的地として到着し、お客様が降りて、君津を周遊するという商品をやっていたところをごさいますて、民間の自走が始まっている部分でごさいます。これからも勉強しながら、サイクルの部分を進めさせていただきたいと思ひます。ご意見ありがとうごさいます。

【小関委員】

その他にごさいますか。

【横尾委員】

マイナビの横尾です。一つお願いがごさいますて、せつかくこういう機会で、こういうイベントを行うならば、是非遠慮なく呼んでいただきたいなと思ひます。なかなか書面で見ても、書面で喋っているというのが自分の中で納得がでさなくて、市民の方に大変申し訳ないという気持ちです。

お聞きしたいのは、最初のジビエのところ、いろいろなことをやられて、ノウハウや調理方法などを習得させることができたと言ひていますが、できたはいいのですが、これが継続しないと地方創生にならないので、実際これがその後どのように継続されているのか、また、参加した方がどうなったのかというのを教えていただきたいと思ひます。文面だけ見るとその下に取扱店の拡大とあるので、なんとかそれを通じて取扱店が増えたのだらうと思ひますが、できれば具体的に何店舗増えたとか、一個一個に対して数字を立ててほしいというのが質問の1点です。

同様に今後の方向性における若手捕獲者育成についても一定数いったからもういいと言ひているが、一定数っていったいどれくらい増えたのかというところも教えていただきたいと思ひます。

総括的に今後の方向性って、部分部分を積み上げて読むと何となく次やりたいことがわかりますが、総括して何をやりたいのかというのが全然出ていないので、今後これをやっていくんだという強い意志が見えてこないというのが気になりました。

【茂木次長】

経済部次長の茂木と申します。よろしくお願ひいたします。きみつジビエについてでございますが、ジビエの講習会は二日間に渡り行いまして、一日目は実際に鳥獣の解体、二日目に調理を行っていただきました。参加者的にはコロナの影響で少なかったのですが、市内の方に加え市外の方からも参加していただきました。これからレシピもいろいろ作っていく中で広がっていくものと思っておりますけれども、実際には、取扱いの店舗につきましては、まだ実際には一桁台という形になっておりまして、参加していただいた方が今後メニュー等を使っていただくことで、徐々に増えていくことを期待しております。

ご存じのとおり、本市は、非常に獣害被害に悩まされておりました、有害鳥獣を食材として販売することにより、農作物被害の減少に加え、新たな食材ということで、君津市は名産品としてなかなか誇れるものが少ないという現状もありますので、こういったものを活用しながら名産を増やしていくことによって、市のPRに繋げていければと考えております。私からは以上です。

【馬場課長】

横尾委員ご意見ありがとうございます。初めのご案内の部分につきまして、皆様方に市の事業のご連絡を差し上げなくて申し訳ございませんでした。できる部分につきましては、参加も含めてご案内させていただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。

また、最後の質問で、総括の部分でございますが、こちらこの後の議題に、先ほど市長も申し上げましたが、新しい10年後の計画を作成させていただいている途中でございます。同じく挨拶の中でありましたが、田守統括参事が国からお越しただいていて、今年度からは全庁的に地方創生を見ていただけるといふところに変えてございまして、また、その新しい総合計画を作る中で、事務方のワーキンググループを作らせていただいているという内容がございます。その中で、地方創生という部分につきまして、職員一人ひとりに周知をあたり徹底しながら新しい総合計画に地方創生を取り込んでいきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

【横尾委員】

若手捕獲者育成は何人なのでしょう？

【中澤副参事】

農政課です。実際、本格的に従事したことがわかっているのは、お一人となっているのですが、その後の方については、それぞれ市内外いらっしゃいましたので、市内の方でしたら地元の猟師の方の現場に同行するような形で、修行じゃないですけどやってらっしゃると聞いています。あとは、狩猟の関係の業務に就きたいということで、関係の専門学校に行こうとされているというような経過をお伺いしています。その後についても、君津市と関わっていただけるような方については、追跡して機会がございましたら、PRにご協力いただければと思っています。

【横尾委員】

君津市さんが小学校で行っているジビエの活動に携わらせていただいたことがあるのですが、昨年秋に長南町さんのほうで、アルソックさんがジビエの解体工場を作られまして、非常に綺麗で、会社がやっているだけあって設備も整ってまして、アルソックさん自身が警備員の方を捕獲者として育てられています。大体この辺りの自治体ではジビエの話がでるので、やはり他のところから一步抜け出すためには、君津さんもそのようなところを見定めながらもっともっと別の業者のご協力をいただくとか、そのような手も一つあるのかと思います。

アルソックさんは非常に今積極的の社員の講習や設備造りを実施していて、あと問題は今どこへ売ろうかなというところで、一回是非民間も活用いただきたいと思います。

【小関委員】

その他はございますか。

達成度であるとか、方向性が継続だとか、有効性がAランクだとかそこについて、意義ございませんか。

それではご意見等ございませんようですので、事務局の案のとおりとしたいと思いますが、先生方から出たアドバイス等を反映させていただいて、やっていただけたらと思います。5つの事業のうち2.5くらいが完了ということになっているかと思いますが、継続というのは重要だと思いますので、よろしくお願い致します。

それでは、二つ目の議題に移りたいと思います。新しい総合計画基本構想骨子たたき台について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局、議事について説明】

【小関委員】

資料3はよろいでしょうか。

【事務局】

資料3については、資料2とほぼ同じ内容になっておりまして、2ページにまとめたものが資料2になっておりますので、割愛させていただきます。

【小関委員】

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

今後10年の基本構想を練っている段階で、貴重なご意見をいただけたらありがたいなと思います。

【横尾委員】

お疲れ様です。もう二度と出ないほうがいいかも知れないくらいのこと言うのですが、1700自治体が日本にあって申し訳ないけど本当に総花的、やってはいけないことでは全然ないのですが、君津市さんが突き抜けたという思いを感じない、何が言いたいかというとなんか本当に移住定住とかこの町に暮らしやすさを求める秘策をもっと一本筋を入れないと、来ていただく方だとか、今住ん

でいる人とか若手が外に出て行ってしまふのを止めるとか、そういったことがこれを見ていると感じにくいんじゃないかと思います。皆さんトップがこの熱量だともっと皆さんの部下とか市民に行ったときはもっと厳しくなっていって結局地方創生と言ってお金はいくら使ってもそれがなかなか反映しにくくなるような感じがします。

本当に君津でもっといいところがいっぱいあるし、何回も出ていますが、住民の方で住みやすいつて言葉を使われる方が多くて、そこで、住みやすければ若い人が出て行ってしまふのを早く止める施策をするとか、以前から言っていますけど、もうちょっと中学高校あるいは小学校の段階で、もっともっと地元教育をするべきだと思います。そして君津を愛してもらおう。特に中学校なんかは地元教育なんかほとんどやらないので、中学高校の多感な時期で、外行こうとか、東京行きたいとかそういうこと言わせないように、本当に地域の方に君津を知ってもらって、君津に居続けてもらおう、あるいは、市内に大学がないのは仕方ないですけど、近隣の大学に行ってもらって、せめてそういうところで捕まえて、もう一度戻ってきてもらおうとか、そういう施策をもうちょっと具体的にやられたほうがいいと個人的には感じました。僕は経済人なので、緑とかもあるのですが、片側でやっぱり、君津で働いている人たちの商業的な部分も、もっともっとPRして、こういう店があるんだよ、こういう会社があるんだよと発信していったほうがいいと思います。やはり経済と一体だと思っていますので、経済面はあまり触れてらっしゃらないので、その部分がすごく大切なんじゃないかなと個人的には思っています。ちょっと作り方のバランスが、僕が勝手に解釈しているかもしれませんが、経済的なところの部分が少し足りていないと感じます。でもこれはすごく根幹なはずだと思います。やはり時代の潮流のところだし、そこはやはりしっかりやるべき話だと思います。いつも勝手なことと言ってすみません。ありがとうございます。

【小関委員】

貴重な意見ありがとうございます。

皆が作っているところでありますので、そこと比べて特色ないよねって話になると君津市が選ばれる可能性も低くなると思います。

特色を起こして前面に出すというところで、人口減を抑えたい、だから中高生教育をする、特に下書きに書くかは別にしても、実施していくというのは手だと思し、実施していく中で、経済的な面として、こういう商工業もございますよっていうのをわかっていただけるように表現すべきとは思いますが。

【馬場課長】

ご意見ありがとうございます。この計画を作るにあたりまして、これまで市民にアンケートを取らせていただいたりですとか、あるいは、直接市長が地元に向いて、約160名の方にご出席いただきましたが、地元の方と市長との会話の場を設けさせていただきました。その中では、やはり、君津が好きですという回答が大部分を占めておりまして、アンケートの結果も8割くらいが君津が好きですという回答をいただきました。また一方では、この資料につきまして、他の場面でお示したところでは、なかなか夢が描けない資料になっていますねというような意見をいただいたこともございます。横尾委員がおっしゃったような君津を選んでいただけるような計画づくりをこれからまた励ましていただきたいと思っておりますし、今お示ししてございますのでは、計画の最上位の構想の部分になりまして、この後、これが出来上がった暁には、細かい5か年計画を作るような段取りがございまして、その中で、今いただいた教育の部分でございましてか出てくることになるかと思っております。また、次のステップになりましたら皆様方にお示ししたいと思っておりますので、経済の部分におきましても改めて検討させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【竹内部長】

只今、特に経済に力強さが足りないというようなご指摘をいただいたところで、ただいま申し上げましたように、具体的には、この後にベースとなる基本計画等々で、その辺りは網羅していくものと認識しておりますが、しかしながら、団体等に話を伺う中で、やはり経済の発展なくしてなせるかと言えなせないだろうというご指摘をいただいております。その中で、例えば、今4番目に経済とございますが、意識を感じさせる上から、例えば考え方として、一番上位に持ってきて、更にその目指すべき町の姿のあたりに、今現在進出していただいて

おります鉄鋼産業等々の弛みない発展、そしてまた新たな産業の誘致などにつきまして、掲載をしていけば、横尾委員のおっしゃる部分が少し払拭されるかというふうに考えております。また改めてご指導いただければと思います。よろしく願いいたします。

【倉阪委員】

私は、この4の将来にわたり経済成長が持続するというのはちょっと違うんじゃないかと逆に思ってしまいます。経済成長と言うとやっぱり対前年度フローの成長でありまして、人口が減る場面においては、それよりも一人当たりのストックの豊かさを確保していくという方向に、行政も切り替えていかないと、いつまでも経っても経済成長では、図れないのではないかと感じていて、少なくともここは将来にわたり豊かな経済が営われるなどそれくらいの書き方にしないと、かなり古臭い目標設定になってしまうというふうに懸念をします。できれば、水と緑を守りなので、将来にわたり豊かなストックに恵まれたまちづくりでいいと思うのですが、経済のことも一応どこかで、必要ということであれば、やはり活力関係とか経済発展とかそういうような言葉が使われたほうがいいのではないかと思います。

それと若干関連はするのですが、1枚目のほうで時代の潮流は、かなり網羅的に記載されてはいると思うのですが、この時代の潮流のところと、今後、求められる対応のところと、若干断絶があるかというふうに思います。例えば、脱炭素社会についてですが、これは一面ビジネス体質でもあるので、新しいビジネスがこれで起こることもありますから、それを君津に導入していく、そういうような視点で、経済発展、活力のある経済に繋げていく、あるいは、新しい生活様式への転換、こちらについてもチャンスでありますね。距離を縮めるといろんな形で働き方も変わってくると思いますからそういった面で、次に新しいビジネスをつくることのできる可能性ができると思います。なので、このあたりも今後人口減少によって劇的に変わっていきますので、それをいかに君津の経済発展に繋げるのか、という視点で、もう一回この今後、求められる対応のところを洗い直して、明確化するということと、今後來る時代の変化ときちんと適応する形で、君津の立地状況とか自然状況等の状況を含めて、何かこれであれば、

新しい時代で生き残ることができるんだというようなところを出していけば、おそらく、横尾さんの指摘されるような君津らしくいい何か尖ったところとか、そういったものも感じられるような総花的でないような計画になるんじゃないかと思しますので、そこの洗い直しも進めていただければと思います。それから市民参加の取組のところで、未来ワークショップ取り上げていただいてありがとうございます。この未来ワークショップに参加された中高生はおそらく、2050年から60年の君津市を担っていくような人材になると思います。なので、彼らが言っているようなことを、ちゃんと反映しましたっていうことをフィードバックできれば、まさにその次の世代を担う人材育成に繋がっていくと思いますので、彼らが言った政策提言をもう一回見直していただいて、少しでも聞かせていただけるとありがたいというふうに思います。

【馬場課長】

ご意見どうもありがとうございます。一点目の経済の面につきましては、現行の総合計画では、経済部門と環境部門は、全く別の柱で添えてございます。ご覧いただいたように、次の新しい計画では、環境と経済を一つのグループの中で、セットにして考えようという方向でやらせていただいております。そういった考えでは、今ご意見いただいたのを踏まえすと、手前どもの考えさせていただいた経済と環境がセットの方向でも、やはり適切な計画を作れるのではないかなと今改めて感じたところでございます。そういったような場合につきまして、一人当たりの幸福度を高めるようなところを、また次の5か年計画で具体的にやっていければなというところでございます。

また、資料2の一枚目の概要版左下に、未来ワークショップとございますが、こちら今ご発言いただきました倉阪先生にお願いしまして子どもたちも参加して意見をいただいたところでございます。一度台風で延期し、暮れの先生のお忙しい時間に実施していただきました。この場をお借りしまして、改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。今一度で、その時の意見、振り返らせていただきますので、どうか今後ともよろしく願いいたします。ご意見ありがとうございました。

【鶴巻委員】

横尾さんよりももっと嫌われる、ちょっとちゃぶ台返しになっちゃうかもしれないのですが、基本構想を、そもそも基本姿勢に関するお話、この基本構想っていうのは市が何をやるのかっていうことを明らかにして、それを市民の皆様を示すためのものだっていうものであれば、別に構わないのですが、そうじゃなくて、これから君津市がこんなふうに行きたいんだっていうものであれば、ちょっとこれはおかしいんじゃないかなと思います。項目自体はいいのですが、今この段階ですから細かい事でいちいち言うことはしませんけど、要はこれから人口が減って、職員も減ってということであれば、どんどん市ができることって限られてくるので、昭和の時代であれば、市が何をやります、市がいろんなことをやりますというのは、すごく責任感があつていいかもしれませんが、これからは企業あるいは住民、皆で市を作っていくなくちゃいけないはずなので、例えば、市民参画の取組って、書いてありますけども、これを拝見すると、失礼ながら申し上げますと、それらしくやった感が強いんです。市民も市を作っていく主役の役割の一人なので、それは意見を聞きましたよ、あとは市のほうで、もらってやりますからではなくて、ここは足りないって部分は市民の皆様もわかっていますよ。市民からすれば税金で取られるか、NPOに寄附するか、あるいは企業に料金を取られるか、ちゃんとした人は、返ってきたらわかりますよ。ちゃんとした料金相応のものが帰ってくればそれでいいし、それは市ではなくたつていいんですよ。それはNPOの方だったり、企業の方だったり、どこが提供してくれたって別に構わないわけであつて、そのあたりがちょっとまだ、昭和の香りぷんぷんの計画になってしまっています。それはたぶん事務局の方も気付いていらして、例えばこの資料3の13ページを拝見すると、福祉の面では、ちゃんと皆が主役になるっていうことが書いてありますが、同じページに参画とあります。参画というところが主体で、あんたら参加者は脇役ですねという感じが強く出ている感じがします。そこだって、皆の命守るなら皆で守ってくださいよ。今の時代の構想なので、ここはみんなが主役なんですってことをもう少し前面に押し出してもいいのかなと思います。

【馬場課長】

ご意見ありがとうございます。先ほど、この計画を作るにあたって、市長とそれから市民の方の懇談の場が、タウンミーティングと手前どもは言わせていただいておりますが、やらせていただきました。その中で、市長が市民の方に直接ご説明する場を設けてございますが、その中で、市長は全ての会場におきまして、やはり行政だけではもう立ち行かないと、市民の方々と一緒に、オール君津で作っていきたいんだということをそれぞれの場面で、ご発言されておりました。おっしゃったとおり、私どもも、意見を聞いてそれを全て行政がやるというのは、今後なかなか難しいというのは承知してございます。市民の方の役割、団体の方の役割、そういった役割分担は今後必要であろうと思っておりますので、また計画の中に入れ込んでいきますよう努力させていただきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

【小関委員】

現状ですね、意中をお伝えして、今後君津市としては、市民も市内の企業含めて皆が前面に出て一緒にまちづくりをしましょうということを、素直にお伝えしたほうがよろしいんじゃないかと思っております。その他はございませんでしょうか。これからいろいろ揉まれるところだと思うんですけど、先生方から出たご意見を参考にさせていただいて、進めていただきたいと思います。

よろしければ、これで以上とさせていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、どうもありがとうございました。

【高橋次長】

皆様貴重なご意見をありがとうございました。総合計画につきましては、今後、基本構想の素案ですとか、基本計画の策定を進めてまいりたいと思っておりますので、これからも皆様からご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。令和3年第1回君津市、まちひとしごと創生有識者会議を閉会といたします。本日はありがとうございました。